有朋
「有朋自遠方来」
第37号

有朋会130周年記念誌発刊にあたって

有朋会会長　宮尾正隆

会報「有朋第37号」の紙面にて、まずは、『有朋会130周年記念誌』発刊に当たり、皆様のご協力に厚くお礼を申し上げます。

有朋会は、明治17年（1884）佐賀県師範学校が創設された４年後の明治21年（1888）発足し、同窓会名を「有朋会」として、129年間引き継がれ現在に至っています。今年、平成30年（2018）には130年を迎えることとなります。２年前に２学部が新設され、文化教育学部が廃止されることもあり、同窓会では130周年記念誌発刊の準備を進めてきました。今年の12月には記念誌も完成し、年度末をめどに会員様のお手元に届けたいと考えています。

『有朋会130周年記念誌』の特色としては、写真を多く掲載し視覚でも当時の様子が彷彿とできるようにしています。

また、戦中・戦後の先輩方の当時の様子を後世に伝えたく、特集を組んでいます。これもひとえに皆様の資料提供のおかげと感謝申し上げます。

なお、今年の主な行事としては、８月に同窓会総会を開催し、喜寿・古希・還暦のお祝いと有朋会130周年記念祝賀会を合わせて行う予定にしています。また、同窓会では学部との意見交換会を８月と２月の年２回実施し、就職状況や現状等について話し合っています。

学生への支援としては主に教員採用試験に関わる就職支援をはじめ、キャリア講座への支援なども行っています。

最後になりましたが、皆様のご健勝を祈念するとともに、今後とも同窓会へのご協力をよろしくお願いいたします。

美術・工芸科の新築 祝賀の様子

昭和37年（1962）10月ごろ、特別教科（美術・工芸）の工芸教室が、教育学部（城内の現県立美術館）から本庄地区（現在の芸術地域デザイン学部南の駐車場）へ最初に移転。

もくじ

＊４年３組とわたし	鍋島小学校	山中　志織	P２
＊変わるもの変わらないもの	芸術地域デザイン学部	甲斐　広文	P３
＊ラムサール条約湿地登録となった肥前鹿島干潟	藤津・鹿島支部	永池　　守	P３
＊伊万里小学校に赴任して	伊万里・西松浦支部	山下　　司	P４
＊佐賀県NIE研究会とともに	唐津支部	光武　正夫	P４
＊運動と私	神埼支部	浦寺　翔太	P５
＊志高く、未来を拓く人を育てる	鳥栖支部	大石　達弘	P５
＊温かい心で	県立・私立支部	片岡　訟子	P６
＊『みやき町のむかし話』制作に参加して	三養基支部	柏木加代子	P６
＊小学校に将棋クラブ開設！	小城・多久支部	田中　裕子	P７
＊有朋会での繋がりがもたらしたもの	江北支部	田代　　茂	P７
＊山岡荘八著『徳川家康』（全26巻）	白石支部	木原　正和	P８
＊清香奨学会　第６回中国派遣事業に参加して	武雄支部	平川　晃大	P８
＊なつかしき思い出	佐賀市東部支部	江頭　敏男	P９
＊魅力あふれる金立町	佐賀市北部支部	岸川　衣織	P９
＊杉岳分校での５年間	佐賀市西部支部	永渕　章平	P10
＊教え子にたすけられて	県庁支部	森戸　恭介	P10
＊支部便り	佐賀市北部支部、伊万里・西松浦支部		P11
＊佐賀大学ホームカミングデーの開催			P11
＊本部便り			P12

４年３組とわたし

H30卒　鍋島小学校　　山　中　志　織

佐賀大学を卒業して１ヶ月が経ち、鍋島小学校４年３組の担任として38名の子どもたちと共に毎日を過ごしています。佐賀大学在学中には、玄海みらい学園や芙蓉小学校に教育ボランティアとして参加させていただきましたがボランティアと違い、保護者対応や責任が求められる担任としての仕事に現在悪戦苦闘しています。私が受け持っている４年３組は活発な子どもたちが多く、いつもにぎやかで笑顔が絶えません。そんなクラスの中で私が特に大切にしていることは、子どもたちと遊ぶ時間を少しでも多く作っていることです。休み時間になると、遊び係が計画した鬼ごっこをクラスの子どもたち全員で行ったり、運動会練習前には教室で一緒に電子黒板を活用しダンスの練習等をしたりして、子どもたちと関わり合いを持っています。

教員として小学校に赴任し１ヶ月経った今、学級経営や授業づくりについて自分が未熟であることを実感しています。授業面において、１学期の私自身の目標は指示・発問を明確にすることを目標としていますが、途中で発問がぼやけてしまったり、子どもたちに上手く伝わらずに子どもたちからの質問が絶えなかったりと課題がたくさんあります。しかし、教材研究の面では、大学の講義であった初等教科教育法を受講していたからこそできることや知識も数多くあります。また、佐賀大学で共に学んだ友人や同じ鍋島小学校に勤務している佐賀大学の先輩方、佐賀大学体育科のOB・OGの方々に学級経営や授業づくりについてアドバイスをして頂き、日々佐賀大学の縦と横のつながりに感謝しているところです。

４年３組の担任となってまだ月日は経っていませんが、日々の生活や行事を通して子どもたちと笑いや涙を共に経験していきたいと考えています。また、これから佐賀大学で学んだことを活かして教員生活を送っていきたいと思います。

変わるもの変わらないもの

H元卒　芸術地域デザイン学部　**甲　斐　広　文**

佐賀大学に戻ってきました。

私は昭和60年に教育学部の特設美術・工芸課程に入学し、専攻科を含めて５年間通いました。卒業して28年後に芸術地域デザイン学部の講師として戻ってくることになりました。

勤務の大半は有田キャンパスですが、本庄キャンパスを訪れると学生の頃とは変わったなぁと思うことが多々あります。

私は入学時に配布された学生便覧を未だに処分できずに持っています。表紙は大学全体を写した航空写真なのですが…今ではだいぶ様子が違います。

在学中に第１生協が学生会館に変わり、美術科棟の前にあった工芸棟が新築移転し、図書館が建ちと、在学中の５年間でも大きく変わりました。

さらに現在では美術館が建ち、理工の西側の運動場がなくなり、いつの間にか下宿近くにあった洋館が学生会館の横に移築されていました。メタセコイヤだと誰かに聞いた並木通りがラクウショウという別の木だったということにも驚きました。

現在の学内はIT化が進んでおり、Wi-Fiの電波が飛んでいます。学生もWi-Fiを利用できる環境を享受していることがあの頃との大きな違いでしょうか…。

私の頃には携帯もない時代で、待ち合わせでの待ちぼうけも、それはそれで得難い経験だったと…今では思えます。

何を得て何を得られなくなったのか？　しかし、環境が大きく変わっても、そこで学ぼうとする学生の姿勢は変わらないものかもしれません。

ラムサール条約湿地登録となった肥前鹿島干潟

S51卒　藤津・鹿島支部　**永　池　　守**

鹿島市新籠干潟は、2002年にシギ・チドリ類の重要な渡来地として「東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要湿地ネットワーク」に参加。

特にチュウシャクシギやズグロカモメは国内有数の飛来数で、希少数のツクシガモやクロツラヘラサギ（絶滅危惧種・地球上に3,000羽程度生息）も多く飛来する。

これらの渡り鳥を支える干潟環境の豊かさは世界的に認められ2015年に開催されたラムサールCOP12で、「肥前鹿島干潟」としてラムサール条約湿地に登録された。日本の中では50番目の登録地になる。

この登録されたという意義は、これまで住んできた地域住民が、この干潟を大事に育て上げ、ここまでつないできたという証でもある。

登録後は、湿地環境の「保全・再生」「賢明な利用」「交流・学習」の理念のもとに、渡り鳥や干潟環境の保全に官民協働で取り組んでいる。特に、佐賀大学、ラムサール推進室、区長会、学校、日本野鳥の会、まえうみ市民の会等との連携を図り、鹿島市の生涯学習の一つの柱として、干潟環境保全を掲げ、公開講座や体験学習をさらに充実させる必要性を感じる。

現在、退職４年目になるが、今後も、この活動の継続と発展を願って取り組んでいきたい。

伊万里小学校に赴任して

S57卒　伊万里・西松浦支部　　山　下　　司

本校は創立145年を迎えた。今日まで教科・領域全般に係る研究発表、音楽教育に係る全国表彰、育友会活動にあっては文部大臣表彰など、市内の中心校として教育研究に大きく足跡を残してきている。この節目の年に赴任させていただいた。そこで、スローガンを「145年目の伊万里小：始動」としてコミュニティースクール的教育活動を展開し、地域を巻き込んだ学校づくりのスタートの年にしたいと考えた。

まず目指したことは、学校の地域貢献度の向上である。組織として「響け　伊小の会」を立ち上げ、連携の意義や活動内容を話し合った。そして提言を受けた。それは、本市の一大イベントである「伊万里トンテントン祭り」に関わりを持ってはどうかということだった。地域を愛し、誇りに思う心の醸成がそのねらいである。そこで協議して、メインストリートへの花プランター設置や商店街へのポスター掲示、祭り前後の清掃活動等々に全学年で取り組んだ。結果、嬉しいお便りも多く寄せられ、市民の関心の高さがうかがえたところである。

ささやかな取り組みのスタートであるが、「響け　伊小の会」の組織化には意義を感じている。今後も提言をいただきながら、少しずつ深めていければと考えている。

「響け　伊小の会」の貢献活動に対して
地域の方から贈られた感謝の書

佐賀県NIE研究会とともに

S63卒・H元修　唐津支部　　光　武　正　夫

佐賀県NIE研究会を立ち上げたのは2015年の９月である。第１回研究会で私は、「佐賀県でも教師間のネットワークづくりや、若い人に経験を伝える場にしたい」と設立趣旨を説明した。

教師主体の研究会としては九州で６番目となる佐賀県NIE研究会の特色は、会長が佐賀新聞社の富吉賢太郎氏であり、教師と新聞記者やデスクが“新聞を活用した教育”について協働して企画や実践、交流を行うことにある。また、年４回ペースの研究会に加えて、「親子新聞教室」を開催したり、「いっしょに読もう新聞コンクール」の佐賀県賞を創設したりしながら、児童・生徒や家庭への働きかけも行ってきた。

それらの取組を、研究会設立当初から共に実践してきた先輩教頭が、今春、定年退職をされた。退職者が増え、今年の新規採用教職員は300名を超えた。４年前、初任者研修を担当したが、若い先生方は社会科でも新聞を読んでいない事実に驚いたことがある。子どもの学ぶ意欲や社会力を育むためにまずは教師から。若い先生方を巻き込んで、NIEの可能性を追求し続けたい。

運　動　と　私

H22院修　神埼支部　**浦　寺　翔　太**

「子どもが好き、体を動かすことが好き」といった理由から教師を目指し、現在、中学校の保健体育教師として勤務している。間近で子どもの成長をみることができ、大変充実した毎日を送っている。私は、小学３年生のころ野球と出会った。学生時代は、野球部に所属し日々練習に励み、仲間と過ごした時間は今でも忘れられない宝物となっている。教師となってからは軟式野球部顧問となり、日々、子どもたちと汗を流している。

今日の中学校の部活動においては、運動部活動の過熱化や子どもたちのスポーツ障害などさまざまな課題を抱えている。平成30年３月にスポーツ庁から「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が示された。その中では、左記の課題を解決するためにさまざまな方向性が示され、運動部活動の在り方が大きく変わろうとしている。

運動の楽しさや必要性、運動部活動の意義を子どもたちに伝えていくためにも、この変換期を機会に子どもたちのことを第一に考え、運動部活動改革と真剣に向き合っていきたい。

志高く、未来を拓く人を育てる

S59卒　鳥栖支部　**大　石　達　弘**

勤務する鳥栖西中学校の教育目標は「西中一心～夢や目標をもち共に挑戦する生徒」である。心の師である坂本龍馬の如く、志を掲げ、ひたむきに生きたいと思い続けた私が、生徒たちに予測不可能な未来を生き抜く力を身に付けさせ、未来を託したいという思いから設定した。

とはいえ、10年後の未来さえ予測困難と言われる今、夢をもち、志を高くもつ生徒を育てるという目標は、PDCAサイクルからすれば、実現不可能な良くない目標であろう。

しかし、私はこの目標を掲げ続け、校長として学校経営を行い、活力ある学校づくりをめざしている。それは、私の生き方に起因している。

故郷「呼子」で育ち、「唐津城」の袂の高校で学び、「佐賀大学」では大いに学び、そして、登山、サイクリング、ヒッチハイクで日本各地を巡り、「教職」に就いてからは長期で中東、短期で東南アジア、アメリカの海外派遣も経験した。人生の挫折も幾度となく経験したが、龍馬のごとく、常に志は高くあろうとし続けた。

私の教職生活も、あと３年となった。今は、生徒たちと同僚である教職員からエネルギーをもらって、「夢や目標をもち、志を高く掲げる」ことを忘れず、校長として立ち続けている。

温かい心で

H13卒　県立・私立支部　　片　岡　訟　子

教員生活も17年目。

大学を卒業し、教員となり、家族が増え、子育てに追われ、生活はガラリと変わりました。

以前は仕事100％だった生活もそうはいかなくなり、どれも一番に全力でやりたい気持ちと現実との折り合いがつかず、未だに葛藤ばかり。書道の教員としての自己研鑽もままならず、いろいろな展覧会で研鑽を積まれる先輩方や後輩の姿を、焦りながら目にする日々が続いています。

そんな生活の中で、なかなか制作が行えず悩んでいる私を温かく見守ってくださったのが大学在学時からご指導いただいている竹之内先生でした。先生からの「待っています」のメールに私は救われました。焦りでいっぱいだった私に、戻る場所のある安心感を与えてくださった先生のおかげで、また少しずつ始めることができています。

いくつになっても気にかけて見守ってもらえる安心感は心地よく、次に向かう原動力となると思います。日々生徒と接する中で、つい言い過ぎてしまうこともありますが、見守り支えることを目標に、これからも生徒に寄り添っていきたいと思っています。

『みやき町のむかし話』制作に参加して

S45卒　三養基支部　　柏　木　加代子

私は教職を退いた後、読書ボランティアに参加し、地元の小学校の教室で、毎週始業前に絵本の読み語りを続けています。

いつも子ども達が、目を輝かせて絵本に見入り聞いてくれるので、「もっと頑張ろう！」という気持ちになります。読み終えた後は、本の題名や著者、図書館名を記録簿に書き、子ども達の反応を伝え合います。

みやき町内には３つの読書ボランティアグループがありますが、５年前に『なみきの会』を結成し、私設図書館「ひだまり」で定期的に集まり、お勧めの絵本を紹介し合ったり、講師の方から発音の仕方等を教わったりしています。この『なみきの会』の活動の中から「地域に眠っている伝説や民話を、子ども達にも分かるような絵本にして語り継いでいこう」というアイデアが生まれ、県の交付金や町の支援を受けて、絵本の制作を始めました。

町史を読んだり、お寺の住職さんや郷土史研究会の方に話を聴いたり、現地を観に行ったりして、言葉遣いや表現に苦心しながら、絵本の文を書きました。表紙絵や挿絵は、会員や町内の小中学生や小学校の元校長先生に描いていただきました。こうして、平成27年度に『みやき町のむかし話』が完成しました。子ども達が、より深く郷土に親しみをもってくれることを願いながら、この「むかし話」を読み語り続けたいと思います。

小学校に将棋クラブ開設！

S61卒　小城・多久支部　　田　中　裕　子

将棋が藤井七段の活躍のおかげでブームとなっていますが、本校にもその波がやってきました。

本校には、地域と学校を結ぶかけ橋である「地域連携室」が体育館の２階に設置されています。そこに常駐する江口さんから、連携の一つの方法として将棋クラブを立ち上げ、老人会の方に交流目的に将棋を教えてもらったらどうかとのお話をいただきました。

善は急げと昨年12月に第１回を開始、その後も月２回昼休みに順調に行っています。メンバーは流動的ですが、異年齢交流が将棋をすることで自然にできています。老人会の方が指導されたり、実際に相手をしたりと、地域と学校の無理をしない自然な形での交流がまた一つ生まれているのを実感します。

この将棋クラブの学校の担当者は校長先生。作った手前、将棋はできないとは言えず、昔教えてもらった駒の動きをネットで復習し、子どもたちに相手をしてもらいながらようやく将棋が指せるようになりました。同年代の男性教員は相当やっているらしく、子どもたちは歯がたたない様子。そのせいか、子どもたちが相手を求めてくるのはこちらに。毎回こてんぱんにやられ、最後は勝ち方指南まで受ける始末…。

しかしながら、子どもたちとの思わぬコミュニケーションツールができ、老人会と小学生という年齢を超えて交流ができる将棋の魅力にはまっています。

有朋会での繋がりがもたらしたもの

H８卒　江北支部　　田　代　　茂

事務局として、希望される退職会員さん宅へ年会費を預かりにうかがっています。時にはお茶を頂きながら話し込むこともあり、炭鉱時代の江北小の様子や今の教育について思うことなど話題は多岐にわたります。その中の一人、退職会員の高柳先生宅では今年も社会情勢についての話題になりました。日本がこのまま平和な社会を維持できるのか先生は大変危惧されると同時に、戦争体験者が年々減っていく中、自分の体験を語らずにいることのもどかしさも感じられているようでした。

ちょうどそのころ、総合的な学習の時間で「20歳までの10年をどう生きる？」というテーマで授業をしていましたので、ぜひ学校へ来て、戦争体験の話をしてほしいと依頼しました。快く引き受けていただき、授業の準備が始まりました。子ども達の反応を想像しながら、いきいきと準備をされる姿は退職されて20年も過ぎているとは思えないほどでした。当日は、72年前に10歳だった高柳先生が今の10歳の子ども達に、自分が見たもの感じたことを話して下さいました。その時代を生きてきた方の言葉は重く、子ども達も真剣に話に聞き入っていました。

本校はよくゲストティーチャーを迎える機会があり、その中には有朋会の方も多くいらっしゃいます。退職後も学校を温かく見守って下さっている諸先輩方に感謝の気持ちを持つとともに、これからもこの繋がりを大切にしていきたいと思いました。

山岡荘八著『徳川家康』（全26巻）

S55卒　白石支部　　木　原　正　和

40年ほど前、大学時代に下宿先のおばさんが読書家で、この本を何回も読み、時々その内容を話されていた。その話を聞きながら、いつかは読んでみたい本として、頭の片隅に記憶していた。

この本は、主人公の徳川家康の生母、於大の方の縁談から、家康逝去までの70余年が描かれている。ギネスブックに、マルセル・プルースト著『失われた時を求めて』と並び、「世界最長の小説」として記録されている。

そんな話を子どもたちにしていたら、５年ほど前、誕生日のお祝いとして、『徳川家康』（全26巻）をプレゼントしてくれた。夏休みにじっくり読もうと２回ほどチャレンジしたが、10巻程読んだところで夏休みが終わってしまった。

そんなこともあり、定年退職したら一番最初に読んでみようと考えていた。今年３月で定年を迎え、４月１日から読み始めた。１ヶ月で10巻まで読み終えたので、３ヶ月はかかりそうである。地図や史実等確認しながら、じっくりと読んでいる。心に残った一文は、手帳にメモしながら読み進めている。そのメモの一部を紹介する。

- 人生の荷は重いほどよい。その重荷に耐えることがずっと大きく人を育てる。
- 一つの坂で難渋して、それより先へ登ろうとしなかったら、車はやがて坂下へ狂ったように落ちだす。
- 人には人それぞれの持って産まれた器の大小があるようだ。第一等の目標を目ざせる者と、目前の小事や感情に縛られて身動き出来なくなる者と。

などなど

６月中には全巻読み終えて、これからの生き方に参考にしたい。

清香奨学会　第６回中国派遣事業に参加して

H25院修　武雄支部　　平　川　晃　大

平成30年３月、私は一般財団法人清香奨学会が毎年行っている中国派遣事業に参加しました。この事業は、日中友好を主な目的として平成25年から行われています。

今回、私が一番印象に残ったのは、やはり中国の方との交流です。特に遼寧大学に在籍する朴さんとは連絡先を交換するほど親しくなり、楽しい時間を過ごすことができました。朴さんは大学で日本語を専攻しており、日本語をある程度話すことができました。そして、瀋陽の案内を務めてくれたため、話す機会が多々ありました。この朴さんと話していて一番驚いたのは、日本語が全て理解できるわけではないし、全て話せるわけではないのに、全く物怖じせずに話しているということでした。日本では、多くの人が高校を卒業するまでに、英語を学習しているにも関わらず、英語で話しかけられると「私は話せないから」と断る人が多いという話を聞きます。日本人とは真逆ともいえる朴さんのコミュニケーションの取り方に、中国の人の強さを感じました。こういったコミュニケーションへの姿勢は、私にはないもので見習いたいと思いました。

中国で見聞きしたことはまだまだあり、語りつくせないほどです。それだけたくさんのことを学び、自分の見識を広げることができました。今回の経験をこれからの教員生活に活かし、子ども達が広い世界に目を向けられるようにしたいと思っています。

なつかしき思い出

S43卒　佐賀市東部支部　**江　頭　敏　男**

教員生活を終え、12年になる。時が経つのは早いものだ。現在、教員だったことが影響してなのか、いろいろな役割や係が舞い込んでくる。断りたいのだが、断り切れず引き受けてしまう。現在、５つの係を依頼され活動している。この役割は、ほとんどが教員だったことが活動の軸となっている。その１つに人権擁護委員がある。この活動は主に人権の啓発活動である。学校等を訪問、人権教室を実施、子どもたちに人権の尊さ、大切さを話している。特に、この教室での話は、若い時代、自分で研究しながら、子どもたちから教わった「体育とグループ学習」である。

40数年前の話である。４年生の私のクラスに体育が苦手な女の子がいた。水泳では着替えてくるが、プールに入ろうとしない。何度もすすめるが、金網をしっかり握り、動かない。数時間こんな調子で過ごしていたある日、女の子がプールにいない。そこで、探し回る。しかし、見つからない。困ってプールに戻るがやはりいない。何気なくプールの中を見たら。そこに、いるのではないか。あんなに嫌っていた女の子がどうして？後でグループの友達に聞いてみた。子どもたちが「一緒に泳ごうよ」と言ったら、プールの中に入ってきたとのこと。「グループで支え合い、助け合い、教え合い」を合言葉に取り組んできた成果がでたのであろう。それ以来、どんな体育でも取り組んでくれた。グループの友達の支えのおかげである。私は人権擁護委員として、「えみちゃんの話」として、学校で「支え合い、助け合い」の大切さを話している。

佐賀から北の空を見ていると「えみちゃん」のにこやかな顔が浮かんでくる。教育現場での懐かしい思い出である。

魅力あふれる金立町

H19卒　佐賀市北部支部　**岸　川　衣　織**

金立小学校に赴任して６年目となりました。私はたくさんの魅力がある金立町が大好きです。

金立町は、豊かな自然に囲まれています。梅雨の時期はカエルが、真夏になるとセミが大合唱をします。秋になると、金立いこいの広場ではたくさんのコスモスが花開きます。秋風に揺れるコスモスはとても美しいです。校舎から見える金立山も魅力的です。毎日パワーをもらいます。春夏秋冬によって表情を変える金立町の風景は面白いです。

金立町と言えば、東名遺跡をはじめ、たくさんの史跡でも有名です。最近の私の楽しみは、郷土クラブで史跡めぐりをすることです。徐福さんとお辰さんの恋話は、子どもだけでなく私も興味津々。他にもこんな所にこんな物があったのかとディープな金立探しはとても楽しいです。

金立町にはたくさんの福祉施設があります。特に、児童養護施設で生活する子どもや、そこで働く職員の方との出会いで私の価値観は大きく変わりました。「幸せって一体何だろう？」と金立小に赴任して以来、何度も自問しています。子どもたちや職員の方からたくさんのことを学びました。

そして何より、金立町の人々が温かいです。たくさんの行事に保護者の方や地域の方が協力してくださいます。顔を合わせるたびに、「先生、元気ね？」や「金立小に来年もおらんばよ！」などと声を掛けてもらい、元気が出ます。

老後に移り住みたいなと思うくらい魅力あふれる金立町。こんなステキな環境で伸び伸びと育つ子どもたちは、とてもかわいく、何よりも一番魅力的です。

杉岳分校での５年間

Ｓ60卒　佐賀市西部支部　**永　渕　章　平**

教職について32年が過ぎた。その中で、忘れられない５年間がある。私を､肩書きとしての教員から、プロとしての教員へと育ててくれた５年間である。

私は、新規採用で当時杵島郡北方町の北方小学校に赴任した。大学出たてで、右も左も分からない、肩書きだけの教員として３年を過ごすことになる。当時の先輩の先生方は、そんな自分に親切に指導の仕方や学級経営について教えてくださったが、何の取り柄もない役立たずだったと思う。

その後、北方小学校の杉岳分校への転勤を薦められた。その頃は分からなかったが、今思えば、教師として大切なことを学ばせるために校長先生が気を遣ってのことだったかもしれない。

分校には、１年生から４年生までの８名が学んでいた。担当教師２人で２学級を複式で学習していた。４年生は最上級生として下の学年のお世話をし、学年が上がるにつれて、それぞれが役割を分担する。お互いが助け合い、ほのぼのとした雰囲気の学校だった。

私は先輩の先生から教師としての大切な心構えから細かい教育技術をマンツーマンで学び、子どもたちはそれに応えてくれた。やや失いかけていた自信を取り戻すと共に、教えることへのやりがいや楽しみを味わうことができた。

分校では徹底的に体験にこだわった。疑問があると、実際に試してみる。やりたいことがあると、先輩の先生が後押しをしてくれた。「生きることは食べること」野菜を育てれば、分校キャンプをして保護者と一緒にカレーを作る。生き物の勉強ではいろいろな動物を飼育した。当時は山羊を飼っていて、子どもたちが交代で世話をしていた。そしてそのことを、作文や共同製作の版画作りに発展させた。まさに「五感」を使って思いを膨らませ自己表現をする場がそこにあった。

地域とのふれあいでは、分校運動会を開き地域の方と一緒になって競技した。お年寄りとの交流会では、手作りのおまんじゅうをふるまい、保護者会では子どもたちが考えた人形劇で泣き笑いの大盛り上がりとなった。狭い校庭でもできる一輪車に取り組み、本校の運動会では、アトラクションとしてその成果を全校児童の前で披露した。

子どもたち一人一人に出番と役割を与え、まわりの人が称賛することで、子どもたちは自信をつけ、本校へ行っても堂々と自分を表現できるようにしたい。そんな思いで、分校での実践を続けていた。そして、九州へき地教育研究会で発表もさせてもらった。自分の実践に一本筋が通った気がした。

子どもたちに何を学ばせるか､「生きる力」とは何か、教師の役割とは…。いろいろなことを学ばせてもらった。自分が今あるのは、分校での５年間のおかげだと思う。自分を受け入れてくれた、当時の子どもたちや保護者、地域の皆様には感謝の言葉しかない。

有朋会で何か書いてくれと頼まれた時に、書くことはこれしかないなとの思いで､綴らせてもらった。自分にとっての原点を思い出しながら、残り５年余りとなった教職を初心に返って過ごしていきたい。

教え子にたすけられて

Ｈ５卒　県庁支部　**森　戸　恭　介**

今年の２月９日の朝、佐賀県の西部は雪に見舞われた。

若木町から女山トンネルへの上り坂をのぼるとともに少しずつ雪が積もりはじめ、トンネルを抜けると周りの景色が一変していた。路面は凍結し、下り坂では徐行してもスリップするような状態だった。「これ以上は無理」と思い、職場に電話連絡をして峠の途中から徒歩で降りることにした。道路は渋滞しており、歩く私のほうが車よりもはやい状態だった。ふもとまで歩き、バス停でバスを待つが当然ながらバスは来ることはなかった。

その日の出勤をあきらめようとした時､「先生！」と車の中から呼ぶ声がして、軽ワゴンの運転席と助手席になつかしい顔が並んでいた。中学校を卒業して20年程時間が経っていたが、面影そのままの２人だった。その日の仕事の現場が佐賀市内ということで、たまたま通りかかったそうだが、近くの駅まで乗せてもらうことになった。車中で昔話や近況などを話しながら、久しぶりに学校の先生気分を思い出すことができた。「どこまでも送っていいよ」と言ってくれたが、甘えることもできないので、小城駅で別れた。これまで25年の教員人生を続けることができているのも、このような生徒のおかげだとあらためて確認できる出来事だった。また再会できることを楽しみにしたい。

佐賀市北部支部便り

佐賀市北部支部では、平成29年度より支部の事務局を１年ごとの持ち回りとすることになりました。初年度は春日小学校が事務局でした。本支部では、有朋会の支部総会を平成29年11月28日㈫18時より春日小学校で実施しました。

当日は、宮尾会長や竹下事務局長も参加していただき、北部支部の会員数や会費の納入状況等の現状報告を事務担当者が行いました。その後、地元の銘菓をいただきながら、有朋会副会長で前佐賀女子短期大学長の山田直行先生の「ふるさとスケッチ」の絵画を用いて、クイズ形式で鑑賞会を行いました。短い時間ではありましたが、お菓子を頬張りながら楽しい時間を過ごすことができました。

（支部長　西　佐枝子）

伊万里・西松浦支部便り

平成29年９月２日㈯に本部より山口久美子副会長様、竹下敬教事務局長様をお迎えし、総会・懇親会を開催しました。山口副会長様からは、全学同窓会の動向や有朋会130周年記念誌発刊等について大変有意義なお話をしていただきました。また、会員発表では、南波多小学校　中山洋徳教諭に「小学校における『子どもの貧困』の発見と対応」の演題で講演をしていただきました。生育環境が貧困等で厳しい子どもたちが早期に学習から離脱してしまう状況の、改善に向けての取り組みの一助になり、貴重な示唆をいただいたものと感謝しております。その後、山口副会長様、竹下事務局長様も引き続きご参加いただいた懇親会には27名の参加がありました。組織や年齢の垣根を越えたところでの語り合いが見られ、深い交流ができたものと嬉しく思っています。

有朋会員の連携や同窓生意識ということで、この伊万里・西松浦支部においてもさらに活気のある、そして魅力的な会にしていきたいと考えます。この総会にお一人でも多くの方にご出席いただき、有朋の名のもとにいついつまでも佐賀県教育を支えられ、推進されんことを祈念している次第です。

（支部長　山下　　司）

佐賀大学ホームカミングデーの開催

【期日】平成30年11月17日㈯　14：00～
【場所】佐賀大学本庄キャンパス　経済学部４号館及び美術館
【目的】佐賀大学の卒業生に母校を訪問してもらい、母校の現状を知り、恩師、学友との再会と交流を深め、今後の母校へのご理解とご支援をいただければ幸いです。
【対象】卒業年度にかかわらず、すべての同窓生と本学の名誉教授
【内容】大学の近況報告、講演、美術館見学、懇親会等
（懇親会にご参加の場合、参加費2,000円が必要です。）

※詳しくは、佐賀大学校友会のホームページのお知らせをご覧ください。
（URL https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/）
※申し込み・連絡先　校友会事務局
（E-mail：kouyukai@mail.admin.saga-u.ac.jp）TEL：0952-28-8154

本　部　便　り

130周年記念総会・祝賀会

期日　平成30年８月25日（土）14：00～18：00

会場　ガーデンテラス佐賀　ホテル＆マリトピア（旧マリトピア）
佐賀市新栄３丁目７番８号　　TEL：0952-23-0111

日程　○役員打ち合わせ：12：30～　《本部役員・支部長・実行委員（S63卒）》
○受付：13：00～
○【第Ⅰ部】130周年記念総会　：14：00～14：40
○【第Ⅱ部】130周年記念祝賀会：14：50～18：00

会費　3,000円（会費は、受付にてお支払いください。）

申込　本部へ直接（FAX：0952-25-5700）・各学校委員や支部長へ

※《旧マリトピアへは、JR佐賀駅北口より送迎バスを用意します。》
〈12：00発（役員・S63卒用）〉〈13：00発、13：30発（来賓・喜寿・古希・還暦・一般）〉
※《会終了後、JR佐賀駅北口へ送迎バスを用意します。》
※喜寿、還暦に加え、古希のお祝いも行います。
※今年度のお世話担当は、昭和63年３月卒の皆さんです。

追　悼　会

期日　平成30年11月18日（日）

会場　「　願　正　寺　」
受　付……９：30～
追悼会……10：00～11：00

※明治24年有朋会員による「総集会」が発足。明治26年当時の全会員128名の浄財で願正寺の一隅に石碑が建立され、全会員参加による追悼会が開催されて以来、本会最大の年行事として継承されてきました。

平成30年度　有朋会行事予定

月	日	曜	本部行事	備考
4	1	日	教職員異動新聞発表（異動による名簿更新）	※各支部で会員把握
	10	火	第１回正副会長会（18：00～）	代議員名簿締切25日
	21	土	第１回本部役員会（15：00～）	採用試験支援
5	18	金	会報第37号執筆者締切り〔2月17日原稿依頼〕	採用試験支援（個別指導１）
	26	土	第１回支部長及び事務担当合同会議（15：00～）	
6	6	水	会報第37号　編集会議（２回校正）	
	8	金	63卒世話役の依頼	
	15	金	各支部会報部数調査	
	20	水	各部会実施予備日	※各部会で決定
	27	水	63卒世話役代表者の打ち合わせ（19：00～）	菱の実会館小会議室
7	2	月	喜寿、還暦、感謝状　締切	
			本年度の物故者、喜寿、還暦対象者の確認依頼	会員調査締切：退職含
	9	月	会報第37号　発送開始	
	11	水	第２回　正副会長会（18：00～）	
	25	水	喜寿祝賀該当者、感謝状受賞者決定	
			63卒世話役の打ち合わせ（19：00～）	
	27	金	会員数調査　締切　　会費＝月末締切	現職の会費納入締切
8	1	水	懇親会参加申し込み　締切	採用試験支援（個別指導２）
			学部との意見交換会（学部課程代表）18：30 多目的室	採用試験支援（個別指導３）
	25	土	総会・懇親会14：00　マリトピア 直前打ち合わせ：本部・63卒　12：30集合	130周年記念祝賀会予定
9	28	金	平成30年度追悼対象者報告第１次締切	会費納入締切（退職者）
10	1	月	追悼会案内の発送	
	10	水	第３回正副会長会（18：00～）	
	15	月	平成30年度追悼対象者報告　　最終締切	
	20	土	本部役員会（15：00～）菱の実会館多目的室	
11	17	土	佐賀大学ホームカミングデー14：00～18：00	対象：卒業生の全て
			願正寺との打合せおよび前日準備　事務局	
	18	日	追悼会（願正寺）9：30～11：00	各支部より３名程度
	24	土	佐賀県青春寮歌祭（13：00～）エスプラッツホール	
12	5	水	第４回正副会長会（18：00～）	
1	9	水	学部との意見交換会（学部課程就職担当）18：00 多目的室	
	25	金	就職支援講座担当者会（15：00～16：00）菱の実会館	学部、就職支援課、講師
2	16	土	第２回支部長及び事務担当合同会議（15：00～）	未納会費の納入締切
3	22	金	佐賀大学卒業式（10：00～）・祝賀会（12：30～）	
	29	金	有朋会監査（10：00～）菱の実会館小会議室	

会費納入へのお願い

※会費納入は、基本的に下記の要領で！
特別会員（師範学校卒業）の方は免除。
会報が必要な方は、校区小学校の学校委員に連絡を。

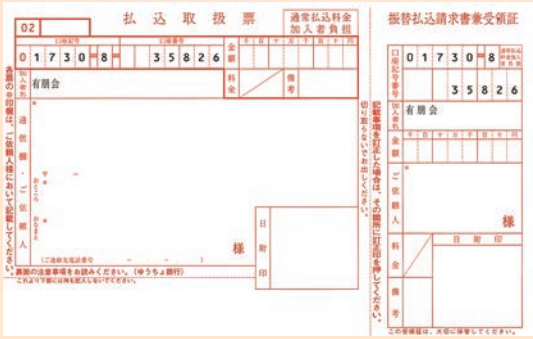
【１】県内学校勤務の会員は？
学校単位で徴収し、支部の事務局へ納入。

【２】県内の退職会員は？
校区の小学校に持参するか、同封伝票で。
金額は地区により異なるので確認を。

【３】県外会員の方は？
各県の事務局へ納入。年会費は、1,300円。
福岡県は支部費を含み、2,300円。
新規納入の方は同封の伝票でも可。

【４】卒業後６年経過の会員は？
県内在住者は、上記１、２の方法で。
県外在住者は、別添振込み用紙で、郵便局の口座に納入。

【５】払込納入を希望される方は？
・ゆうちょ銀行や郵便局ＡＴＭで。
・口座番号　　０－１７３０－８－３５８２６
・加入者名　　「　有　朋　会　」
・払込取扱票は、「赤」の用紙をお使いください。
・できるだけ早期に納入を済ませてください。



有朋　第37号
発行日　平成30年７月２日（月）
発行者　有朋会会長　宮尾正隆
編集者　編集部長　江島きよ子
事務局　事務局長　竹下敬教

住　所　〒840-8502　佐賀市本庄町本庄１
佐賀大学菱の実会館　TEL 0952-23-1253
E-mail dousoukai@sadai.jp
HP http://sadai.jp/alumni/